

課目名	衛生管理 (衛生管理 I)						
課目名(英)	Hygiene management 1						
課目単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	江藤登志美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	美容科 1年生						
授業概要	美容業界を目指す専門生として実社会における衛生知識の向上と啓発を図ることを目的とする。 学習意欲を高め規律ある授業態度の確立を行うと共に美容師として必要な公衆衛生、環境衛生に関する基礎を 習得させ国家試験合格を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				衛生に関する歴史上の人物と業績について3人以上説明する事ができる。	
	○	○				保健所の役割と美容室への関係性についての説明ができる。	
	○	○				母子・高齢者・精神保健についての説明ができる。	
	○	○				環境衛生と美容師の関わりについての説明ができる。	
テキスト・教材 参考図書	・日本理容美容教育センター 出版:衛生管理 ・日本理容美容教育センター出版:ワークブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1編 1章 衛生管理の概要・・・公衆衛生の定義				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	1編 1章 衛生管理の概要・・・美容師と公衆衛生との関わり				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	2章保健・・・保健所の機能と事業				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	2章保健・・・美容師と公衆衛生との関わり				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	2章保健・・・保健についての基礎知識				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	2編 1章 環境衛生・・・公衆衛生水準に関する指標				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	1章 環境衛生・・・老人の保健と福祉				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	1章 環境衛生・・・人を取り巻く環境要因や環境				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	1章 環境衛生・・・環境に対する人の適応性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	1章 環境衛生・・・健康的な環境をつくる目的				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	1章 環境衛生・・・自然環境要因の理解(空気)				配布したプリント・教科の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	1章 環境衛生・・・自然環境要因の理解(温熱、水)				配布したプリント・教科の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	公衆衛生復習問題・・・公衆衛生全般について				配布したプリント・教科の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	環境衛生復習問題・・・環境「衛生全般について				配布したプリント・教科の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	期末試験 解答 解説 / 3篇 感染症				期末試験問題用紙を事前に確認していくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート				○		10%
履修上の注意	毎回の授業でプリントを配布するためファイルに保管する。						

科目名	保健(保健 I)						
科目名(英)	health cosmetology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山口薫		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	美容科1年生						
授業概要	国家試験の合格を目標とし、人体の構造及び皮膚科学に関する知識が美容の仕事に、また、個人の健康管理に活かされるように学習する。 人体の機能を学び、美容師として社会貢献できるように学習をする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				美容技術の基礎となる人体組織について学び、人体の機能と構造について説明ができる。	
	○	○				業務を安全に行うための皮膚、毛髪などに関する知識について説明ができる。	
	○					人体についての名称を3つ以上を挙げることができる。	
テキスト・教材 参考図書	美容保健教科書・配布プリント・筆記用具						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1編1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学					
	2	1編2章 骨格器系 …骨の種類と構造				予習・復習・プリントの整理	
	3	1編2章 骨格器系 …骨髄について				予習・復習・プリントの整理	
	4	1編3章 筋系 …頭部の筋				予習・復習・プリントの整理	
	5	1編3章 筋系 …上肢と下肢の筋				予習・復習・プリントの整理	
	6	1編4章 神経系…脳について				予習・復習・プリントの整理	
	7	1編4章 神経系…脊髄について				予習・復習・プリントの整理	
	8	1編5章 感覚器系 …神経系の保健				予習・復習・プリントの整理	
	9	1編6章 血液・循環器系 …心臓について				予習・復習・プリントの整理	
	10	1編6章 血液・循環器系 …血管について				予習・復習・プリントの整理	
	11	1編7章 呼吸器系/1編8章 消化器系				予習・復習・プリントの整理	
	12	2編1章 皮膚の構造/2編2章 皮膚付属器官の構造				予習・復習・プリントの整理	
	13	2編3章 皮膚の循環系・神経系 /2編4章 皮膚の生理機能				予習・復習・プリントの整理	
	14	2編5章 皮膚の保健 /2編6章 皮膚の疾患				予習・復習・プリントの整理	
15	試験に向けて/まとめ				特になし		
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				75%
	小テスト	○	○				15%
	宿題・レポート				○		10%
履修上の注意	毎講義においてプリントを配布するため、それらを保管できるファイル(フラットファイル形式が理想)を購入し、必ずプリントの整理を行っておくこと。また、出席が12回未満の学生は定期試験を受験できない。						

課目名	化粧品化学						
課目名(英)	Cosmetic Chemistry						
課目単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	高橋 龍		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当課目			
対象学科・学年	美容科 1年						
授業概要	化粧品(化粧品と医薬部外品)の化学成分がどのようなはたらきを持つのかを学習する。また、取り扱いに注意が必要な化粧品(たとえば「混ぜるな危険」と書いてあるものなど)がどのように危険なのかも学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					化粧品の役割と作用や、作用先の皮膚・毛髪について、化学的に説明することができる。	
		○				化粧品の特性を知った上で、注意が必要な化粧品の使い方を説明することができる。	
				○		化粧品化学を学ぶ必要性を認識した上で、積極的に授業に参加することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・化粧品科学 教科書 ・授業プリント(各回の授業最初に配布)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	化粧品概論－化粧品化学が課せられている意義、授業計画、評価方法・基準			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	2	化粧品原料－化粧品の対象となる人体各部の性状			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	3	水性原料－水・エタノール			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	4	油性原料－油脂・ロウ類・炭化水素・その他の油性原料・油性原料の機能			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	5	界面活性剤－界面活性剤の基本的性質・界面活性剤の種類・界面活性剤の化粧品への応用			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	6	高分子化合物－高分子化合物の種類と特性・高分子化合物の化粧品への応用			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	7	色材－色材と化粧品・無機顔料・有機合成色素・光輝性顔料・天然色素			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	8	香料－香料と化粧品・香料の種類・調合香料			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	9	配合成分－化粧品原料の品質保持に用いられる配合成分 化粧品配合成分があたえる機能・その他の特殊成分			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	10	基礎化粧品－皮膚洗浄用化粧品・化粧水・クリーム・乳液 ・その他の基礎化粧品			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	11	毛髪用化粧品－シャンプー剤・スタイリング剤・パーマ剤・育毛剤			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	12	染毛料・染毛剤－ヘアカラー製品			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	13	香水・特殊化粧品－芳香製品・特殊化粧品			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	14	基礎化学－物質の構成・物質(水)の構造・溶解とコロイド・イオン と水素イオン指数・物質の変化と化学反応・酸化・還元反応			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
15	タンパク質			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと			
評価方法	(1)定期試験(選択肢式・筆記試験) (2)プリントファイルの提出 (3)授業中の態度 の3つにより評価を行う。 (3)授業態度は、出席・提出物・授業中の居眠りの回数などで評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	宿題・レポート・提出物	○	○				10%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	試験は授業内容からの出題となる。授業で配布するプリントが試験範囲そのものとなる。試験では国家試験を前提とし、語句などの知識問題、そして国家試験のように文章を読んで正誤を判断する問題などを多く扱う。						

課目名	ヘアテクニック(ヘアカラー)						
課目名(英)	HAIR TECHNIQUES (HAIR COLOR)						
課目単位数	4単位	時間数	20時間	担当者	江藤・糸山・山口・武田		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	美容科 1年生						
授業概要	ヘアカラーの塗布、ホイルワークの仕方やスタンスなどの基本の技術を身に付け、就職後の即戦力になるよう、実習を交えながら習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			自らカラー商材、テクニックを選び、2つ以上のデザインを使って施術することができる。	
	○	○				毛髪の種類と特徴を踏まえ、施術内容を説明することができる。	
	○	○				染毛剤の種類と特徴を踏まえ、髪の状態を判断し施術を提案することができる。	
		○				助言がなくてもモデルの髪質に合わせた、ダメージに合わせたデザインを提案できる。	
テキスト・教材 参考図書	・日本理容美容教育センター出版 美容技術理論1 ・ロレアルカラーテキスト						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	酸化染毛剤①・・・ヘアカラーリング概論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	酸化染毛剤②・・・酸性染毛料の知識・塗布練習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	酸化染毛剤③・・・ホイルワークテクニック			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	ヘアカラー理論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	ヘアカラー理論筆記試験/ヘアカラー企画書作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	相モデルカラー実習に向け練習・・・トレーニングクリームでの練習			教科書での施術手順確認(予習)		
	7	相モデルカラー実習に向け練習・・・相モデルに向けた準備			教科書での施術手順確認(予習)		
	8	相モデルカラー実習に向け練習・・・相モデルでのブリーチ実習			教科書での施術手順確認(予習)		
	9	相モデルヘアカラー・・・相モデルでのアルカリカラー実習(実技試験)			教科書での施術手順確認(予習)		
	10	相モデルヘアカラー・・・相モデルでの酸性カラー実習(実技試験)			教科書での施術手順確認(予習)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)実技試験を(アルカリカラーの施術・酸性カラーの施術)による総合評価 (3)事前に自主学習(予習)を課題として指示を行い、評価の1つとする。 以上を下記の観点で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート				○		10%
	筆記試験	○	○				40%
	実技試験		○	○			50%
履修上の注意	カラー剤の使用上の注意に従い、実習では施術を行う事。						

課目名	ヘアテクニック(着付け&ヘアセット)						
課目名(英)							
課目単位数	4単位	時間数	120時間のうち20時間	担当者	中川 佳代子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	美容科 1年生						
授業概要	黒留袖着付けに関する、基礎知識と基礎技術を習得する ヘアアレンジに関する基礎知識と基礎技術を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					着付けに必要な道具の名称、使い方の説明ができる	
			○			着付けの基礎技術を実施できるようになる	
			○	○		基礎技術の組み合わせで、黒留袖を着付けることができる	
	○					ヘアアレンジに必要な道具の名称、使い方の説明ができる	
			○			ヘアアレンジの基礎技術を実施できるようになる	
		○	○			基礎技術の組み合わせで、ヘアスタイルを作ることができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	道具の名称・着付準備 - 道具の名称、着物各部の名称、着物・帯の種類、着付準備の仕方					
	2	道具の名称・着付準備 - 着物・長襦袢のたたみ方、着物・長襦袢の片付け方、補正の仕方、長襦袢の着付け					
	3	黒留袖着付け - 黒留袖着付け、帯の結び方					
	4	黒留袖着付け - 黒留袖着付け、帯の結び方					
	5	黒留袖着付け復習・筆記テスト					
	6	実技テスト					
	7	道具の説明・使い方 - ピン・ブラシ類の説明、ホットカーラーの巻き方、一束結び、ピンの止め方					
	8	道具の説明・使い方 - フォワードスパイラルカール、ローブ編み、編み込み(表・裏)					
	9	簡単ヘアアレンジ - 復習と応用					
	10	実技テスト					
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業中で実技テストを実施する。②授業中で筆記テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎			◎		50%
	実技テスト			◎	◎		50%
履修上の注意							

課目名	ビューティースキル(メイクアップ)						
課目名(英)	Makeup						
課目単位数	6単位	時間数	180時間のうち60時間	担当者	藤山 奈美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当課目	○		
対象学科・学年	美容科 1年						
授業概要	サロンワークの中で美容のプロとして、お客様に不快感を与えないように机上が整えられ、常に清潔な道具を並べる事ができ、お客様の要望にこたえる為に必要な基礎的技術、道具の名称、皮膚骨格の知識を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○		○			机上が清潔で、綺麗に整えることができる。	
			○			道具の名称、使い方が説明できる。	
			○			モデルに不快感を与えず、技術ができる。	
			○			基礎的な技術を実施することができる。	
		○			セッティングから、フルメイクまでが実施できる。		
テキスト・教材 参考図書	シュウウエムラテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~2	教材配布				ネームペン、シール等持参する	
	3~4	メイクアップとはーシュウウエムラについて				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	5~6	スキンケア1ーモデルの扱い方				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	7~8	スキンケア2ーポイントクレンジング				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	9~10	スキンケア3ーローション、クリームトーン				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	11~12	スキンケア4ースキンケア復習				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	13~14	メイクアップ1ーメイクアップテクニック				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	15~16	メイクアップ2ーベースメイク				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	17~18	メイクアップ3ーフェイスパウダー				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	19~20	メイクアップ4ー実技小テスト				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	21~22	メイクアップ5ーアイメイク				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	23~24	メイクアップ6ーアイブロー				シュウウエムラテキストを読んでおく	
	25~26	メイクアップ7ーチーク				シュウウエムラテキストを読んでおく	
27~28	メイクアップ8ーフルメイク復習				シュウウエムラテキストを読んでおく		
29~30	実技テスト				復習をしておく		
評価方法	(1)授業の中で実施した実技作品を確認する。(2)テキストが記入されているかを確認する。(3)小テスト(実技)を1回実施する。(4)実技テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト	○		◎	◎		70%
	小テスト	○		◎	◎		15%
	作品・テキスト	○		◎	◎		15%
履修上の注意	作品の仕上がりも大切だが、授業中の態度、意欲を主に評価する。						

課目名	ビューティースキル(エステティック)						
課目名(英)	Beautyskill (Esthetic)						
課目単位数	6単位	時間数	180時間のうち30時間	担当者	松崎加奈		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	美容科 1年次						
授業概要	エステティックを通して美容の楽しさややりがいを見出し、学ぶことの大切さを習得する。ホスピタリティーマインドを重視したフェイシャル技術と知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: △	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					美容に必要な皮膚のしくみと働きについて説明できる	
	○	○	○			フェイシャルケアに必要な技術と機器の使用ができる。	
	○	○	○			アロマセラピーについて説明でき、正しく活用できる。	
テキスト・教材 参考図書	認定エステティシャン・認定ホテリエステティシャン(理論編・技術編)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	エステティックとは			教科書を読んで予習しておく		
	2	皮膚科学:皮膚の基礎知識			教科書を読んで予習しておく		
	3	皮膚科学:美容上大切な皮膚の6つの働き			前回の復習と、教科書を読んで予習しておくこと		
	4	皮膚科学:様々な肌状態			前回の復習と、教科書を読んで予習しておくこと		
	5	皮膚科学:肌と環境			前回の復習と、教科書を読んで予習しておくこと		
	6	フェイシャル実習:エステルームの使用方法和準備			実習に必要なタオル類の準備、持参物確認をしておくこと		
	7	フェイシャル実習:クレンジング、ホットタオル拭き取り			実習に必要なタオル類の準備、持参物確認をしておくこと		
	8	フェイシャル実習:スチーマー、ティーフクレンジング、ガラス管吸引			前回の技術の復習と、持参物の確認をしておくこと		
	9	フェイシャル実習:クレンジングからパックまで			前回の技術の復習と、持参物の確認をしておくこと		
	10	フェイシャル実習:マッサージ軽擦法			前回の技術の復習と、持参物の確認をしておくこと		
	11	フェイシャル実習:マッサージ~圧迫法まで			前回の技術の復習と、持参物の確認をしておくこと		
	12	フェイシャル実習:イオン導入			前回の技術の復習と、持参物の確認をしておくこと		
	13	フェイシャル実習:パター			前回の技術の復習と、持参物の確認をしておくこと		
	14	アロマセラピーとは			持参物の確認をしておくこと		
15	アロマセラピーとはを使った入浴剤作り			持参物の確認をしておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)授業の中で実技テストを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト	○	◎	◎	◎		50%
	小テスト	◎	○		◎		50%
履修上の注意							

課目名	デザイン(ファッション)						
課目名(英)	Fashioncodhneit						
課目単位数	2単位	時間数	60時間のうち16時間	担当者	タナベアキコ		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当課目	○		
対象学科・学年	美容科1年次						
授業概要	現代の美容に欠かせないトータル美のうち、ファッションに関する基礎知識を学び、プロとしての視点を確立する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				ファッションを組み立てる上での重要な要素を応用できる	
	○	○				ファッションカラーコーディネートの基本を説明することができる	
		○				ファッションイメージの分類と的確なポイント把握が出来る	
	○					ファッション専門用語が説明出来き、使いこなせる。	
	○					オケイジョンズ(TPO)を踏まえて、提案できる。	
テキスト・教材 参考図書	文化「デザイン」、ファッションコーディネート、MODEetMODE、ファッションの歴史						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	デザイン造形のセオリー			ファッション雑誌に目を通しておく		
	2	ファッションカラーコーディネートテクニック			ファッション雑誌に目を通しておく		
	3	ファッションイメージ(1)イメージを分類説明			ファッション雑誌に目を通しておく		
	4	ファッションイメージ(2)イメージファイル作成			ファッション雑誌に目を通しておく		
	5	デザインの発想と企画			ファッション雑誌に目を通しておく		
	6	ファッションの歴史(洋服の成り立ちと時代の流行)			ライブラリーにあるファッションの歴史に目を通す		
	7	小物の名称			ファッション雑誌に目を通しておく		
	8	オケイジョンズ(T.P.O)			予習プリントを見ておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中でファイル形式作品を作る(2)小テストを実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート		◎				10%
	発表・作品		◎				70%
履修上の注意	多くのファッション雑誌や美容雑誌、映画、アニメ、美術鑑賞、広告、写真集、フラワーアレンジメントなどを見て感性を高める努力をする						